

氏名	NGUYEN THE HUNG		
授与した学位	博士		
専攻分野の名称	学術		
学位授与番号	博甲第	6726	号
学位授与の日付	2022年 9月 22日		
学位授与の要件	環境生命科学研究科 環境科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)		
学位論文の題目	グローバル市場経済下におけるベトナムキャットフィッシュ産業の変化と適応戦略 —ベトナム南部カントー省を事例に—		
論文審査委員	教授 キム ドウチュル	教授 生方 史数	准教授 本田 恭子
<b>学位論文内容の要旨</b>			
<p>本研究では、市場経済下におけるキャットフィッシュ産業の変容と適応戦略をベトナム南部のカントー省の事例から明らかにした。1986年のドイモイ政策導入以降、ベトナム経済は大きく発展したが、この発展に大きく寄与したのが水産物の輸出であり、主要な水産物の一つがキャットフィッシュである。まず、ベトナムにおけるキャットフィッシュ産業の成長過程は、萌芽期、成長期、転換期の3段階に時期区分できるが、その成長過程では、米国市場からのダンピング税障壁、国内生産での需給の不均衡問題、生産過程の安全性に関する認証基準の強化という3つの市場変化に直面してきたことを明らかにした。次に、キャットフィッシュ養殖業者45戸への聞き取り調査結果から、市場競争の激化に伴い、個別生産を続ける養殖業者と、加工・輸出企業との契約生産に切り替えた養殖業者の2形態に分かれていることを突き止めた。さらに、このような生産形態の分化を規定する要因は、外部資源へのアクセス条件であることを明らかにした。具体的には、資金力や社会関係に恵まれた養殖業者は価格変動によるリスクを抱えながらも高収益が期待できる個別生産を続けるが、資金力や社会関係に乏しく市場変動に脆弱な養殖業者は期待収益の低い加工・輸出会社との契約生産に転じざるを得なかった。</p> <p>一方、加工・輸出企業16社への聞き取り調査により、企業は自社養殖池の確保や認証の取得、輸出市場の転換と開拓、輸出に向けての企業間連携といった4つの方法で市場変化に対応していることが明らかとなった。また、これらの企業の対応を事業規模別に比較した結果、大規模な企業ほど安定的に原料を調達し、市場のニーズに応えた高価格な商品を安定的に輸出しているのに対し、小規模な企業は原料調達に不安要素を抱え、市場のニーズに応えることができず、不安定な条件での輸出を強いられていることが明らかとなった。つまり、企業の二極化が進んでいるといえる。</p> <p>以上の分析結果から、グローバル市場への参加によりベトナムのキャットフィッシュ産業は、外貨獲得による経済的効果、生産過程の改善による品質向上効果と市場競争への適応能力の向上効果の3つのメリットを受けることができたと考えられる。しかし他方で、産業内での2極化を引き起こし、市場立場の弱い小規模な養殖業者と加工・輸出企業はグローバル経済の恩恵を受けることができていない。今後、市場競争は益々激化し、市場ニーズも拡大していくことが予想され、産業の2極化はさらに進み、小規模な養殖業者や加工・輸出企業の存続は一層厳しくなると考えられる。</p>			

## 論文審査結果の要旨

本研究は、ベトナムの主要な輸出品目の一つであるキャットフィッシュのグローバルサプライチェーンを題材に、養殖業者と加工企業の両方からそれぞれの市場変化への対応や関連性を緻密な現地調査に基づいて解明したものであり、その主な成果は次の通りになる。

ベトナムのキャットフィッシュ産業はその成長過程で、米国市場からのダンピング税障壁、国内生産での需給の不均衡問題、生産過程の安全性に関する認証基準の強化という3つの市場変化に直面してきた。これらの市場変化に対し養殖業者は、高利益が期待できるがリスクも大きい個別生産と、リスクは回避できるが利益の少ない契約生産という2パターンで対応してきた。このような生産形態を分ける規定要因は、資金力や社会資本であり、これらに恵まれた養殖業者は価格変動によるリスクを抱えながらも高収益が期待できる個別生産を続けるが、資金力や社会関係に乏しく市場変動に脆弱な養殖業者は期待収益の低い加工・輸出会社との契約生産に転じざるを得ない。一方、加工・輸出企業は、自社養殖池の確保や認証の取得、輸出市場の転換と開拓、輸出に向けての企業間連携といった4つの方法で市場変化に対応していることが明らかとなった。また、大規模な企業ほど安定的に原料を調達し、市場のニーズに応えた高価格な商品を安定的に輸出しているのに対し、小規模な企業は原料調達に不安要素を抱え、市場のニーズに応えることができず、不安定な条件での輸出を強いられるといった、企業の二極化が進んでいることを突き止めた。

このような本研究の成果は、発展途上国における成長産業がいかにグローバル化に対応し、変化を遂げているかを解明し、対象地域のベトナムのみならず東南アジア諸国にも少なからぬ示唆を与えるものと評価できる。よって、本論文が博士（学術）の学位論文に値すると認定する。